

科学技術高校・理科通信

いきもの記

Vol.114 2024.8.16

生物教員 佐藤龍平

西表島特集①

5年ぶりの西表島研修！

5年ぶりに西表島フィールドワークが復活！興奮しっぱなしの4泊5日（7/25-29）だった。

生徒にはよく言っているが、ぼくは西表島マニアだ。プライベートも含めて10回以上行っている。初めて西表島を訪れたのは、大学3年の時。毎年西表島に行っている研究室があるという噂を聞きつけ、「自分も連れて行ってほしい！」と教官室に直談判した。そんな無礼な学生に対し、のちの指導教官となるアベ先生は「研究室で行くのとは別に、虫採り目的で一緒に行かないか」と誘ってくれた。先生が神様のように思えた。こうして、初西表島は『大学の先生と二人きりで一週間虫採り三昧』という奇妙で最高な旅となった。今考えても、あの時勇気を出してお願いしに行ったら良かったと心から思っている（カメムシを好きになったのも、じつはこの初西表の時なのだ）。

この学校に来てから西表島研修の担当になり、ここでは語り尽くせないくらい熱い思いがあるのだが、とにかく、みんなに「人生を変える経験」をさせたいと思っている（現に、過去に西表島に連れて行った生徒にはハマリすぎて琉球大学に進学したものもいる）。都会の学校だと、生き物が好きと言っても図鑑やYouTubeで見ているだけ、環境問題に興味があると言ってもどんな問題が起きているか自分の目で見ていない、そんな生徒が多い。みんなにはぜひとも**ホンモノの体験**をしてもらいたいと思って、学校外に連れ出すことばかり考えている。

今回の西表も最高だった。朝は**アカショウビン**のキョロロ…という声が聞こえ、夜はライトを消すと隣にいる人が見えなくなるほどの“真の暗闇”の中で、**ホタル**の光だけが浮かび上がり、本当に朝から晩まで感動の連続だった。それに、現地の**マングローブ**の研究者からレクチャーを受けるなんて、普通の旅行では絶対にできない。ちょっと贅沢すぎるんじゃないかなと思う内容だった。今回参加したユウリは、中学の頃からこの研修に憧れ、**そのためにずっとお金を貯めてきたらしい**。生徒の情熱もすごい…。

この後しばらく、いきもの記では西表島の話が続くが、ご容赦願いたい。



西表島で見た天の川 満点の星空とはこのこと！



広大なマングローブ林



ヤエヤママドボタルの幼虫
幼虫もお尻が光る。左側がお尻。



巨大ナナフシに大興奮のルイ
何かを見つける度にうー！と声上がる。こういう姿を見ると、連れてこれて良かったと思う。